

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成18年11月1日～平成19年10月31日

テーマ： 緑と花と小鳥の学校づくり

氏名： 駒田 郁夫

所属： 上三川町立坂上小学校

1. 課題の主旨

坂上小学校は、たいへん緑豊かな学校である。学校の東側には広いクヌギ林をもち、校舎南側にも自前で校庭に畑を有しているほどの環境に恵まれている。学校を取り巻く環境も牧歌的で、動植物の自然の姿をいたるところで見ることができる。児童は、毎日こうした自分たちを取り巻く環境から、教室の中だけでは学ぶことのできない数多くのことを学んでいる。また、自然探しが好きで季節に応じて昆虫採集や、植物観察・収集など多方面にわたり自分たちの環境をたいへん好んで活用している。

次のようなことをねらいとして、さらにこの環境を充実させようと考えている。

- ① 様々な体験活動や縦割り班などの学年間交流活動を通して、豊かな人間性を育て望ましい人間関係の醸成に努める。
- ② 児童が環境緑化に興味・関心をもち、自主的・自発的に取り組めるよう指導の工夫に努める。

2. 準備

本校の環境緑化活動の基本計画は、以下の通りである。

ア 学校環境緑化のテーマ

本校では、環境緑化のテーマを下記の通り掲げ、緑化活動に取り組んでいる。

「緑と花と小鳥の学校づくり」

イ 学校環境緑化の目標

- ① 自然との関わりを大切にし、様々な体験活動を通して、自然に対する関心を培う。
- ② 身近な環境と自分たちの関わりについて、理解を深める。
- ③ 身近な環境を守り、さらに自分たちで新たに環境を創造していこうと実践する態度を身に付ける。

ウ 学校環境緑化基本計画

- ① 全教育活動の中で環境緑化教育を組織的・計画的に実践する。また学校全体が機能するように推進体制の整備・充実に努める。
- ② 様々な体験活動や縦割り班などの学年間交流活動を通して、豊かな人間性を育て望ましい人間関係の醸成に努める。
- ③ 児童が環境緑化に興味・関心をもち、自主的・自発的に取り組めるよう指導の工夫に努める。
- ④ 坂上小の地域に根ざし、地域とともに学ぶことができるよう、保護者との連携を密にし、児童と保護者、教師が一体となって緑化活動に取り組むことができるように努める。

3. 指導方法

(1) 環境緑化推進活動

- ① なかよしの森の整備と活用『学びとふれあいの広場へ』
- ② いきいき農園活動
- ③ みどり活動（花壇整備活動、除草活動）
- ④ 児童の手による樹木管理活動
- ⑤ 坂上地域の環境保全活動

(2) 教職員研修活動

- ① 環境構成計画の検討と実施
- ② 学校林・学校農園の利用計画の検討と実施
- ③ 学校林の管理（除草作業、樹木の管理、老朽化した看板の交換）
- ④ 観察用の機材の充実（フィールドスコープの購入）

(3) 環境緑化における地域との連携活動

- ① PTAとの連携活動
- ② フラワープレゼント

4. 実践内容

(1) 環境緑化推進活動

① なかよしの森の整備と活用『学びとふれあいの広場へ』

- ア 椎茸栽培
- イ 昆虫飼育
- ウ 自然植物・鳥観察ゾーン
- エ 縦割り班でのエリア活動

「なかよしの森」を6つのエリアに分け、縦割り班ごとに、除草や樹木の手入れ、草木の観察等を行っている。今年度は縦割り班ごとにエリアを巡回しながら、ビンゴゲームをしたり、観察記録を付けたりする。自分たちの手で整備を図り、その中で観察などの様々な体験活動を行い、学びの森としての「なかよしの森」の有効活用を図る。さらに、異年齢集団活動を行う中で、互いに協力し合っていくことの大切さを学ぶことができるようにする。



- オ あじさい群生ゾーンの整備
- カ 実のなる植物ゾーンの整備
- キ 自然観察コーナーの整備

② いきいき農園活動

校舎南に設置した畑（約4a）を利用した農園活動を行っている。総合的な学習の時間、生活科の学習に役立てながら、野菜や各学年のテーマに沿った植物を植え、観察をしている。秋には、収穫した野菜を使つての収穫祭や保護者への発表などを本年度も実施する。また、各学年で農園の中に教材園を割り振り、理科学習に役立つようにする。



③ みどり活動

毎週水曜日の清掃の時間に「みどり活動」を位置づけ、全児童が農園活動や除草作業などを行っている。各学年ごとに様々な野菜を育てたり、学年花壇に花を植えたり、除草したりして野菜や草花を育てる喜びを味い、環境美化の大切さを学んでいる。

④ 児童の手による樹木管理活動

環境委員会の児童や高学年児童を中心に、教師の指導のもと、樹木の剪定などを行っている。児童の手による環境緑化活動に取り組んでいる。

⑤ 坂上地域の環境保全活動

学校周辺の緑豊かな環境にも目を向け、活動している。地域の中を縦割り班でウォークラリーを楽しみながら、自然とふれあう活動を行っている。

(2) 教職員研修活動

年度始めに環境構成計画を全職員で検討し、環境緑化に関する共通理解を図った。その後、学校農園や学校林の管理に協力して当たっている。

(3) 環境緑化における地域との連携活動

① PTAとの連携活動

「緑と花と小鳥の学校」づくりを合い言葉として、児童・教職員・保護者が一体となって緑化活動に取り組んでいる。(5月・9月に行う親子奉仕作業)(野菜、稲作りなどの地域の専門家を招いての栽培指導の援助)(学校農園のトラクターによる耕作援助)

② フラワープレゼント

主に、環境委員会の児童が中心となりパンジーを栽培し、坂上コミュニティセンターなど地域の関係機関にプレゼントする運動を展開している。

5. 成果・効果

・学校林「なかよしの森」が継続して整備され、児童が自由に遊んだり、観察したりできる環境づくりが進められてきた。また、縦割り班(1～6年までの異年齢集団)での活動が継続して行われたため、児童同士のつながりが深まり、より幅広い活動を進めることができた。特に、野鳥観察に関する機材が充実したので、野鳥に関心を持って調べている児童が増えてきた。

6. 所感

・年間の計画を立てて、継続的に活動を行ってきた。児童の活動を見ていると、木の実を利用した作品を作ったり、切り株や樹木を利用した鬼ごっこを考えたりと自然とともに活動する姿が印象的であった。季節の移り変わりも木の実の種類や葉っぱの色づかいなどから実感できていた。素晴らしい経験を積めたことと思う。

7. 今後の課題や発展性について

・学校林に生えている樹木が、ずいぶん古くなり伐採する必要があるが出てきた。今後は、学校林を利用した活動の再編成を迫られることになる。学校林の再生をテーマに活動を考えていきたい。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事